

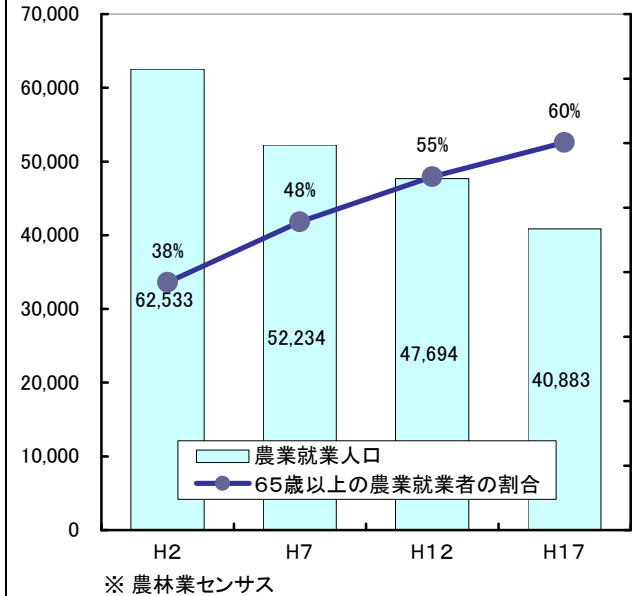
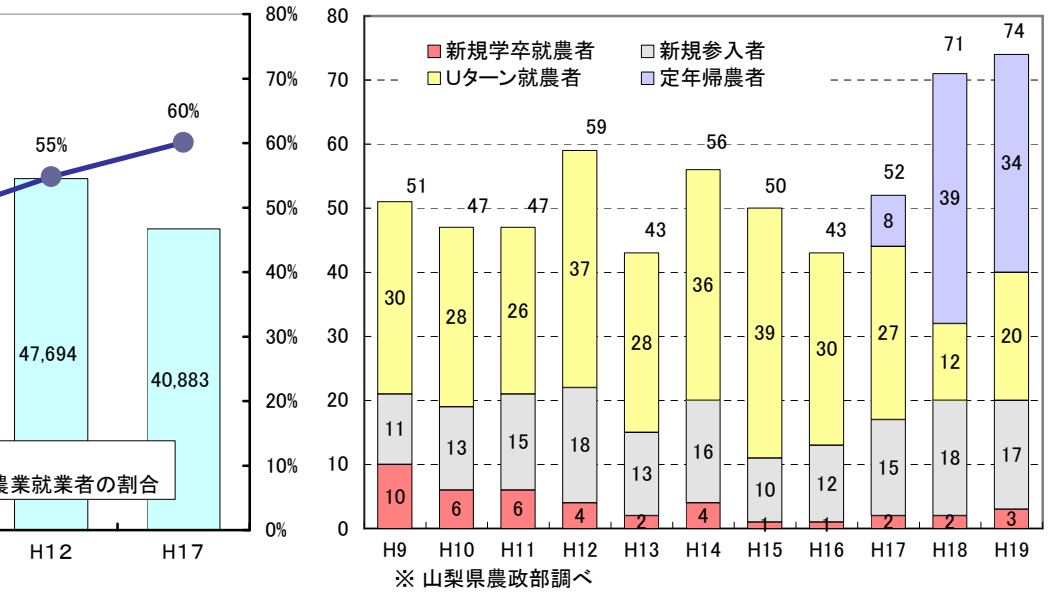
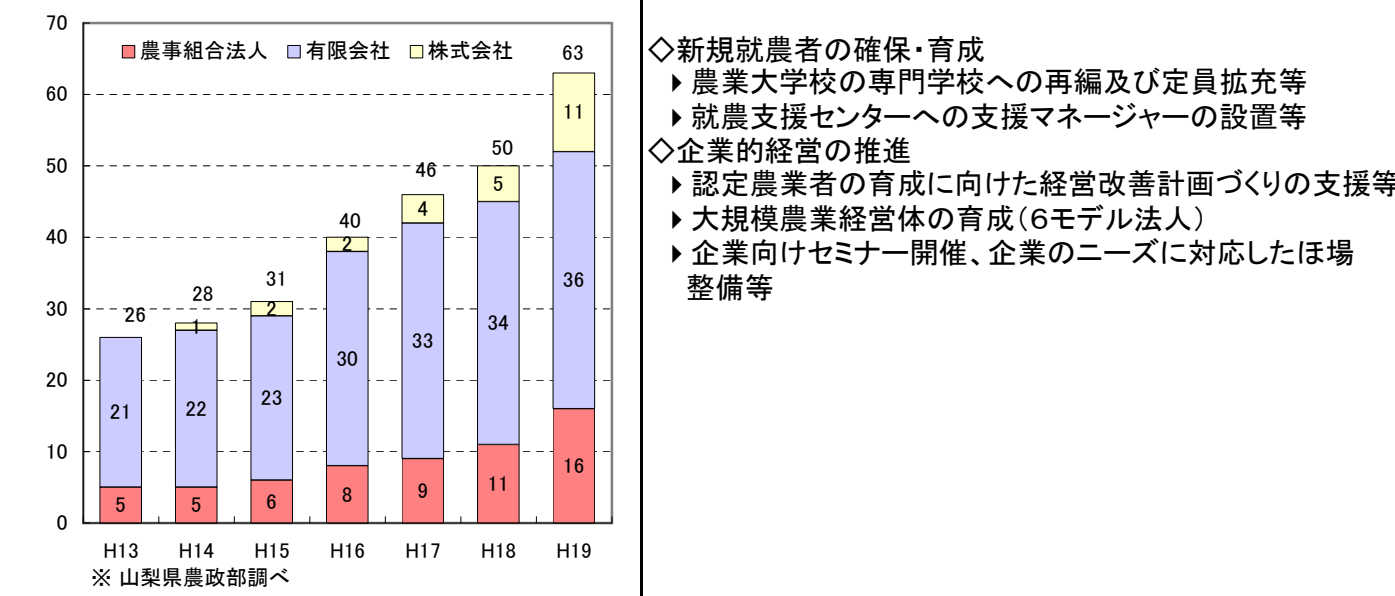
## 各分野の今後の施策についてー主な課題の現状と取り組みの方向ー

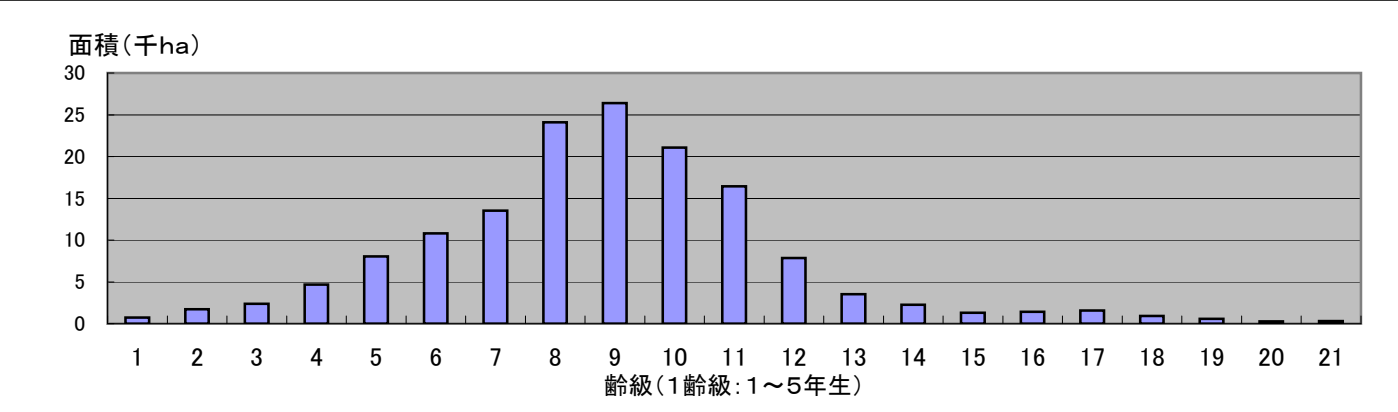
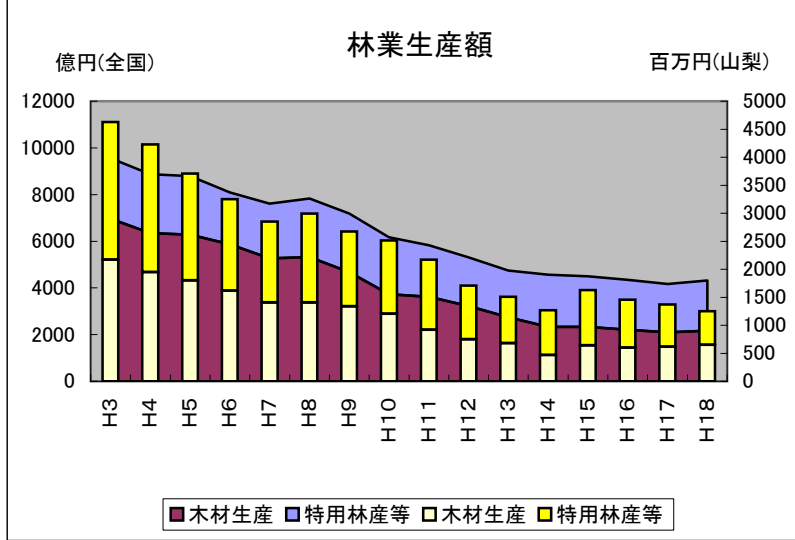
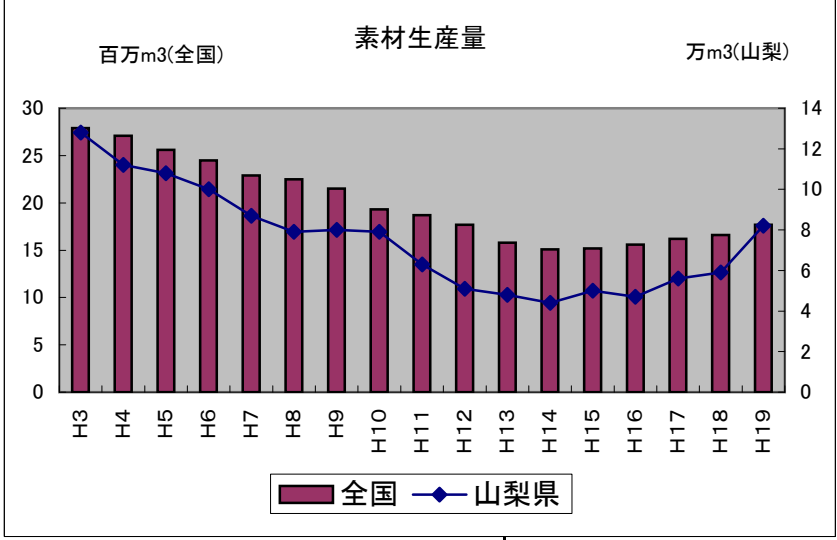
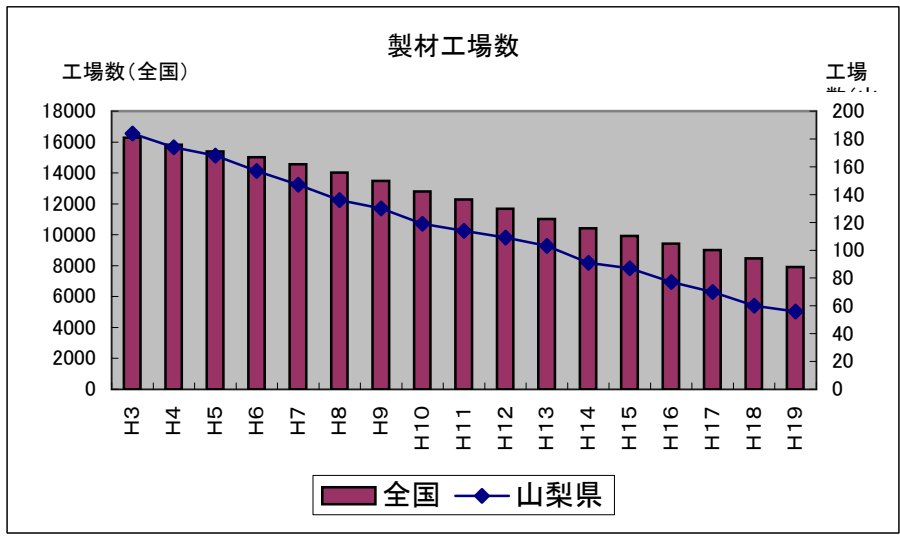
## ※掲載事項

I カみなぎる・やまなし	① やまなしブランドの確立に向けた広報戦略の展開	1ページ
	② 新たな農業の担い手づくり	3ページ
	③ 林業・木材産業の活性化に向けた取り組み	4ページ
	④ 技術系人材の育成・確保	5ページ
	⑤ 新産業創出の取り組み	
	⑥ 中心市街地の再生	6ページ
II やすらぎ・やまなし	① 防災拠点の整備	7ページ
	② 少子化対策の推進	
	③ 安心して出産できる体制の確保	
	④ 公立病院の再編・ネットワーク化	8ページ
	⑤ 県立病院の経営形態の見直し	9ページ
III はぐくむ・やまなし	① 山梨の教育振興	10ページ
	② 高等学校教育の充実	11ページ
	③ 国民文化祭に向けての取り組み	12ページ
	④ 県立文学館の魅力向上	13ページ
IV さわやか・やまなし	① 地球温暖化対策の推進	14ページ
	② 再生可能エネルギーの利用	15ページ
	③ 美しい県土づくり	16ページ
V つどう・やまなし	① 新たな観光の振興	17ページ
	② 二地域居住の促進	
	③ インバウンド観光の推進	
VI むすぶ・やまなし	① 骨格道路網の整備	18ページ
	② リニア中央新幹線の早期実現	19ページ

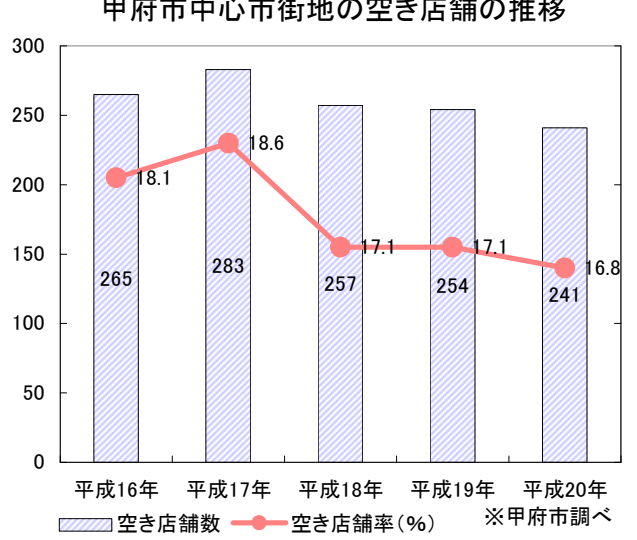
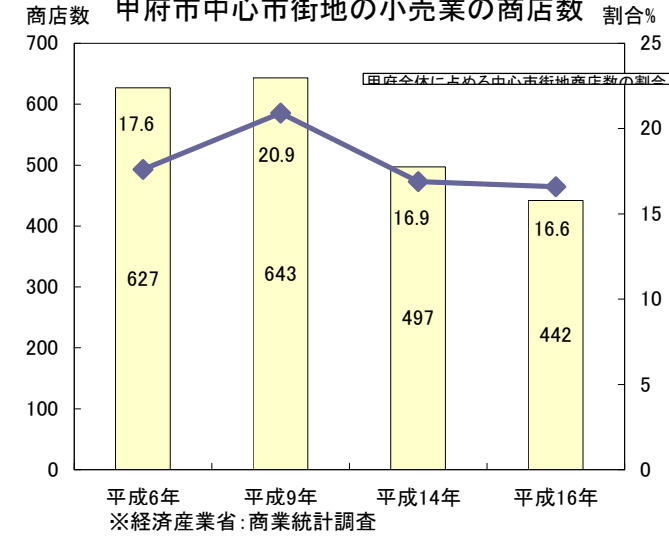
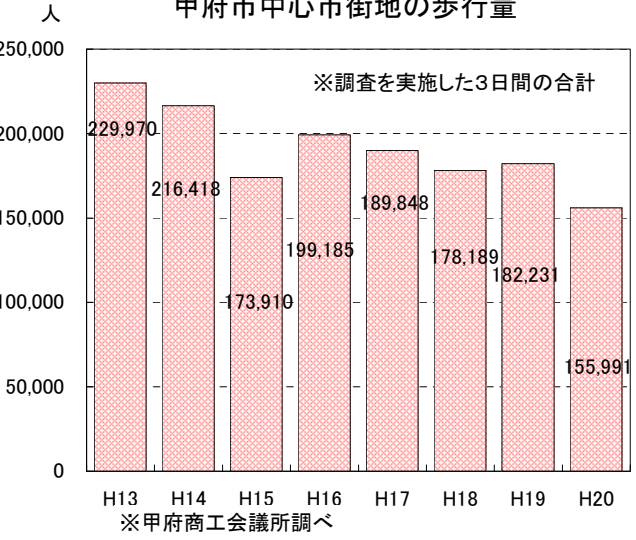
基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
① やまなしブランドの確立に向けた広報戦略の展開  カみなぎる・やまなし	① やまなしブランドの確立に向けた広報戦略の展開	<p>■ 山梨県の知名度、イメージの低さ（日経リサーチ社／H18）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 都道府県ブランドランキング 全国26位（静岡13位、長野14位、愛知15位、千葉16位、新潟17位、青森18位）</li> </ul> <p>■ メディアを通じた情報発信の少なさ（日経リサーチ社／H18）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広告：テレビCM全国44位（全国最下位）、新聞広告39位、雑誌広告45位、交通広告（車内、駅貼りポスター）34位</li> <li>▶ パブリシティ：テレビ・ラジオ番組22位、新聞記事39位、雑誌記事19位</li> </ul> <p>■ やまなしブランドを確立していくためには、効果的な情報発信により、ブランド価値を高めることが必要</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="207 399 1305 1092"> <p>地域ブランド知覚指数(PQ値) 都道府県ランキング (日経リサーチ「2006地域ブランド戦略サーベイ」より作成)</p> <p>26位 山梨県 578点</p> </div> <div data-bbox="1335 399 2136 1092"> <p>山梨県と普段どのようなところで接触しているか 都道府県順位</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 複数メディア活用による戦略的な情報発信</li> <li>▶ パブリシティの強化</li> <li>▶ 話題性のあるメディアの活用</li> <li>▶ 山梨と接触し、体験する機会の拡大</li> </ul> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 販路拡大戦略(関係部)             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トップセールス</li> <li>▶ ブドウ、モモ、ワインの海外展開</li> <li>▶ 大手企業と連携した県産品の販路拡大</li> </ul> </li> <li>◇ イメージアップ戦略             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広報PR戦略の策定</li> <li>▶ 景観形成の促進</li> <li>▶ ふるさと教育の推進</li> </ul> </li> <li>◇ コミュニケーション拡大戦略             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ やまなしサポーターズ倶楽部(県ゆかりの在京財界人等)</li> <li>▶ 山梨の魅カメッセンジャー(県内大学生)</li> </ul> </li> </ul>
	<p>&lt;参考&gt; 県産品(ワイン)の販路拡大</p>	<p>■ ワインの消費・生産動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 国内アルコール消費量は減少傾向 H10→H19 ▲7.3%</li> <li>▶ うちワインのシェアは2.6%(H19)、H10年以降、大幅減(▲22.9%)</li> <li>▶ うち国産ワインのシェアはH5年に50%を下回り、以降、減少傾向 H5:49.7% → H19:34.0%</li> </ul> <p>■ 県産ワインの動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県産ワインのシェア(生産)は、全体の約12%、国産ワインの約34%</li> <li>▶ 主要品種の甲州種は生産・醸造量ともに激減、ピーク時(H3年)の1/4</li> <li>▶ 近年、新聞等で国産・県産ワインが取り上げられる機会が増えているが、県産ワイン全体の販売増加には結びついていない</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="593 1386 1187 1848"> <p>山梨県産ワインのシェア(H19出荷量ベース)</p> <p>※国税庁調べ(速報版)</p> </div> <div data-bbox="1216 1386 2107 1932"> <p>甲州種ブドウの生産量・醸造仕向量の推移</p> <p>※甲州種ブドウ生産量は農林水産省「特産果樹生産動態等調査」による。 ※甲州種ブドウの醸造仕向量は山梨県ワイン酒造組合調べ。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 積極的・効果的なプロモーションの展開</li> <li>◆ 欧州市場での県産ワインの地位獲得に向けた取り組みへの支援</li> <li>◆ 醸造用ブドウ生産農家が意欲を持てる経営モデルの構築</li> </ul> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 都内・首都圏での試飲商談会、山梨ヌーボーまつりを支援</li> <li>◇ 組合のワイン輸出に向けた取り組みを支援</li> <li>◇ ワイン醸造先端技術の導入             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ワインセンター研究員をフランス・ブルゴーニュへ派遣</li> </ul> </li> <li>◇ 小規模ワイナリーへの技術指導             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県、大学、組合からなる指導チームにより対応</li> </ul> </li> <li>◇ 若手醸造家・農家研究会の活動を支援</li> </ul>

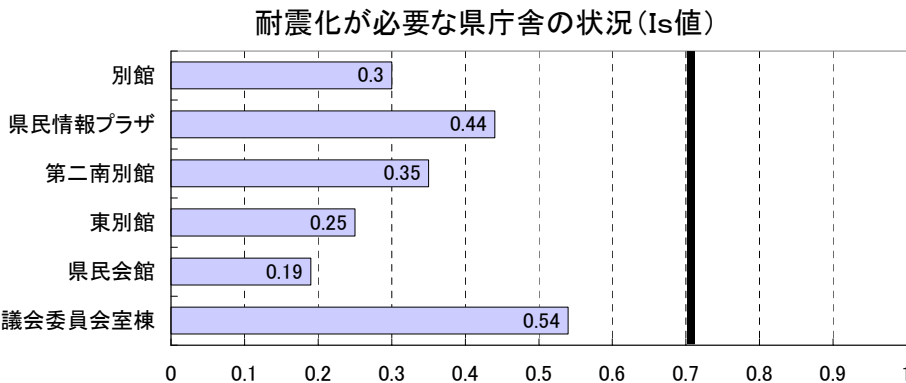
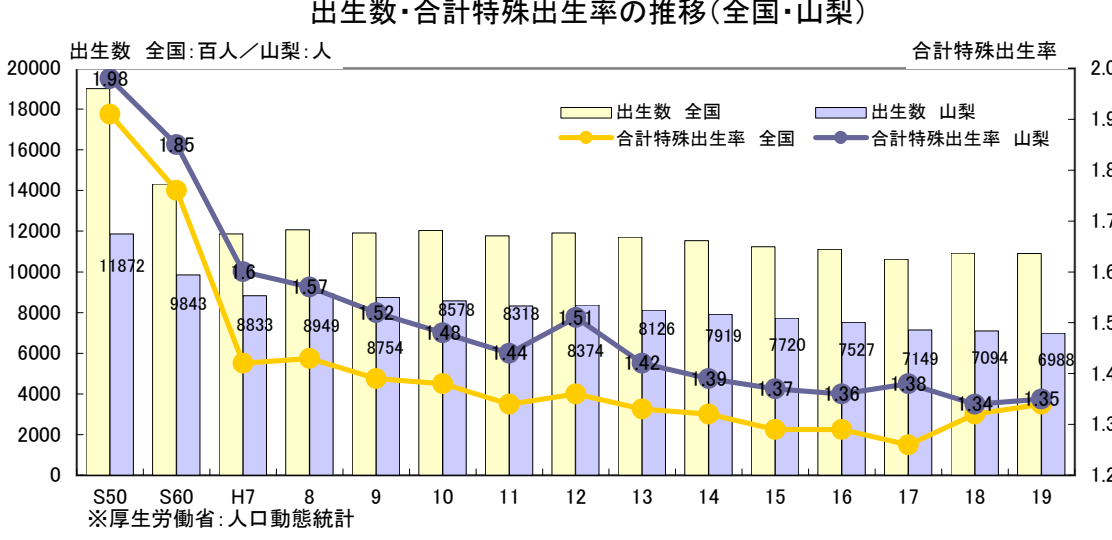
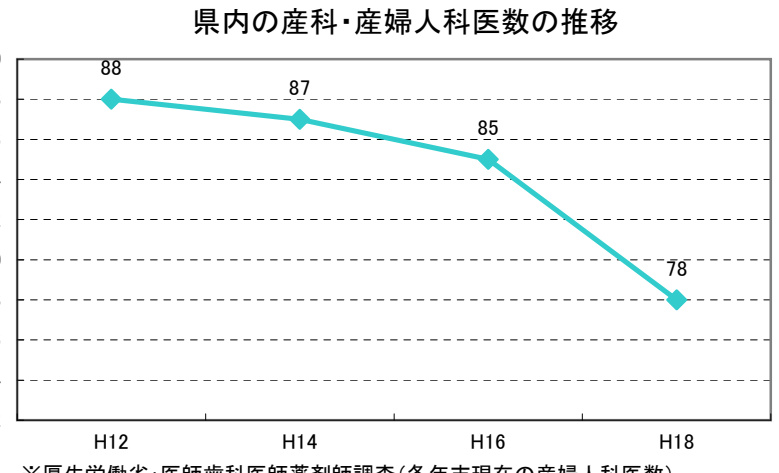
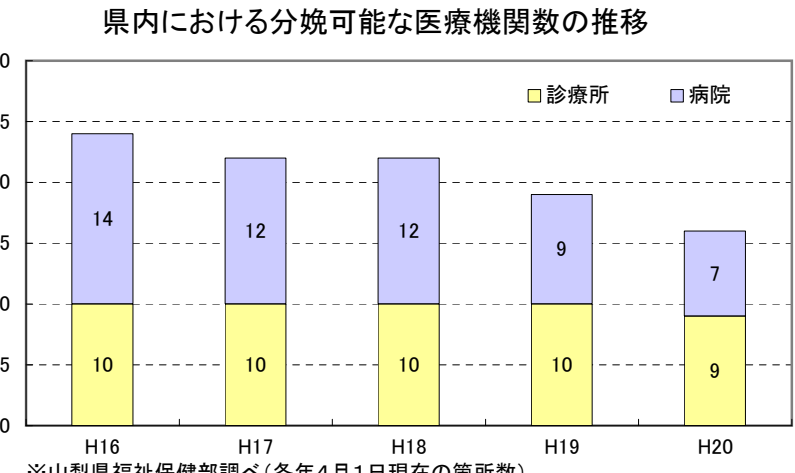
基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
かみなぎる・やまなし	<p>&lt;参考&gt; 県産品(ジュエリー)の販路拡大</p>	<p>■ バブル経済崩壊後の景気後退の中で、貴金属製品の出荷額は低迷 ※H2年:976億円 → H18年:378億円(▲61.2%)</p> <p>■ 製造→卸売→小売という従来の流通形態が流動するなか、消費者への直接販売に注力する動きが出てきている</p> <p>■ 製造～販売を通じたマーケティングと、消費者ニーズを形にするデザイン力が重要 ▶ジュエリー業界においては、高付加価値な「Koo-fu」ブランド確立への取り組みを進めている</p> <p style="text-align: center;">貴金属製品の製造品出荷額の推移</p> <p style="text-align: center;">※ 山梨県工業統計調査</p>	<p>◆「良いものを作れば売れる」という認識から、「消費者ニーズに対応したものを作る」という認識への転換</p> <p>◆最終商品の販売につながるマーケティング戦略の推進</p> <p>◆既存の流通経路に頼らない、新たなビジネスモデルの創出</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <p>◇消費者に直接アピールするため、大宝飾展を支援 ◇海外販路拡大のため、香港国際宝飾展出展を支援 ◇「Koo-fu」の産地ブランド確立と都内における販路開拓の取り組みを支援</p>
	<p>&lt;参考&gt; 県産品(果実)の販路拡大</p>	<p>■ やまなしブランド確立に向け、大田市場等におけるトップセールス、特選農産物出荷の拡大、オリジナル品種の早期産地化等を推進</p> <p>■ アジア諸国の経済発展を背景に、県産果実の輸出拡大に向けた取り組みを強化</p> <p>▶現在は、台湾を主体にモモ、ブドウなどを輸出 ※H19年度実績 輸出品:240t 輸出額:2億3100万円</p> <p>▶更なる輸出拡大のためには、輸出先の検疫措置への対応や輸出業者等とのネットワーク構築、観光やワイン等との一体的PR等が必要</p> <p style="text-align: center;">県産果実の生産額実績の推移</p> <p style="text-align: center;">※ 山梨県農政部調べ</p>	<p>◆やまなしブランドの確立</p> <p>▶特選農産物の販売強化とやまなしブランドの確立</p> <p>▶大消費地でのトップセールスや全国的な販促活動の強化</p> <p>▶オリジナル品種の開発と早期産地化</p> <p>◆県産果実の輸出促進</p> <p>▶台湾の検疫措置に対応した生産・選果体制の整備</p> <p>▶信頼できるシッパー、インポーターとのネットワーク構築</p> <p>【現在の主な取り組み状況】</p> <p>◇やまなしブランドの確立</p> <p>▶トップセールスの実施(京都市内、日本橋・百貨店等)</p> <p>▶「やまなし桃の日フェア」(7月)、「ぶどうフェア」(9月)等</p> <p>▶「山梨県特選農産物取扱認定店」の認定(11社22店舗)</p> <p>◇県産果実の輸出促進</p> <p>▶輸出有望国におけるプロモーション(H20年6月:台湾、H20年9月:香港)</p> <p>▶大田市場内に「輸出促進センター」設置</p> <p>▶山梨中央銀行の香港駐在事務所に国際ビジネスプロモーターを依頼</p>

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
力みなぎる・やまなし	② 新たな農業の担い手づくり	<p>■ 本県では、農業従事者が減少する中、高齢化の進行が著しく、65歳以上の割合が60%に達している。</p> <p>■ 新規就農者は、H17年度まで50名前後で推移したが、H19年度は74名（退職帰農、Uターン就農、新規参入等）</p> <p>■ 新たな担い手として、経営の法人化や企業等の参入促進を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 農業生産法人数 H14年度:28法人 → H19年度:63法人</li> <li>▶ 企業等の農業参入 H19年度:20法人</li> </ul> <p>■ 新規就農者の確保と併せて、農業の中核を担う認定農業者、農業生産法人の育成や企業の農業参入の促進など、多様な担い手の確保、育成が必要</p>	<p>◆ 新しい形態の担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ JA等が参画する法人</li> <li>▶ 地域農業者が集落の合意に基づき組織した団体</li> <li>▶ 地域農業のモデルとなる、大規模で収益性の高い農業生産を目指す法人</li> <li>▶ 自らの経営能力、資金、人材等を生かし農外から農業に参入する企業</li> </ul> <p>【現在の主な取組状況】</p> <p>◇ 新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 農業大学校の専門学校への再編及び定員拡充等</li> <li>▶ 就農支援センターへの支援マネージャーの設置等</li> </ul> <p>◇ 企業的経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 認定農業者の育成に向けた経営改善計画づくりの支援等</li> <li>▶ 大規模農業経営体の育成(6モデル法人)</li> <li>▶ 企業向けセミナー開催、企業のニーズに対応したほ場整備等</li> </ul>
	<p>(人) 農業就業人口の推移(販売農家)</p>  <p>※ 農林業センサス</p>	<p>新規就農者数の推移</p>  <p>※ 山梨県農政部調べ</p>	<p>農業生産法人数の推移</p>  <p>※ 山梨県農政部調べ</p>

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
力みなぎる・やまなし	③ 林業・木材産業の活性化に向けた取り組み	<p>■本県の林業生産額は、平成18年に平成3年の28%の13億円に減少            ▶平成3年:46億円→平成18年:13億円(ピーク 昭和55年72億円)</p> <p>■本県の素材生産量の推移            ▶平成3年12.8万m<sup>3</sup>→平成19年8.2万m<sup>3</sup>(ピーク 昭和35年72.0万m<sup>3</sup>)</p> <p>■本県の製材工場数の推移            ▶平成3年184工場→平成19年56工場(ピーク 昭和40年362工場)</p> <p>■本県の森林資源は、戦後植栽された人工林を中心に利用可能な状況</p> <p>■世界的な木材の需給構造の変化により国産材需要は増加傾向で推移する中、本県の林業・木材産業の振興を図るには県産材の新たな需要の開拓と安定的供給体制の整備が必要</p> <p>【年齢別人工林面積】</p>  <p>戦後植栽された人工林を中心に利用可能な状況になりつつある。</p> <p>《林業の現状》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="341 1024 1083 1528"> <p>林業生産額</p>  <p>平成18年は12億5千万円(平成3年の27%)まで減少している。</p> </div> <div data-bbox="1133 1024 1914 1528"> <p>素材生産量</p>  <p>近年、中国をはじめとした世界的な木材需要の増加や人工林資源の成熟等により国産材需要は増加傾向にある。</p> </div> <div data-bbox="1973 1024 2813 1528"> <p>製材工場数</p>  <p>平成19年は56工場(平成3年の30%)まで減少している。</p> </div> </div>	<p>◆県産材の安定供給と需要拡大</p> <p>◆林業・木材産業の構造改革</p> <p>◆林業労働力の確保・育成</p> <p>◆森林整備の推進</p> <p>【現在の主な取り組み状況】</p> <p>◇県産材マーケットの開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶県下3流域における県産材安定供給の推進</li> <li>▶神奈川県や静岡県東部地域において、「流域材」利用の働きかけを実施</li> <li>▶県産材の利用拡大を図るため、近接県と連携した広域流通システムを構築</li> </ul> <p>◇県産材の地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶県産材認証制度の運用、県産材認証柱及び内装材の無償提供や木材乾燥技術の向上支援</li> <li>▶甲斐の木活用アドバイザーの養成や甲斐の木で家をつくる会の活動支援</li> <li>▶木質バイオマスの利用推進と普及啓発</li> </ul> <p>◇森林整備の担い手対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶労災保険の上乗せ補償共済掛金、蜂さされアレルギー検査及び注射器購入等への助成</li> <li>▶高度技能化作業訓練期間中の業務補償、受講料等及び新規就労者技術習得期間中の奨励金への助成</li> </ul> <p>◇低コスト間伐システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶簡易作業路作設士の養成</li> <li>▶モデル林内における作業路作設経費に助成</li> <li>▶高性能林業機械のリースに要する経費に助成</li> </ul> <p>◇特用林産の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶特用林産の振興を図るための協議会の設置及びイベントの開催</li> <li>▶栽培技術研修会の開催やしいたけ等きこ栽培に必要な原木確保の支援</li> </ul>

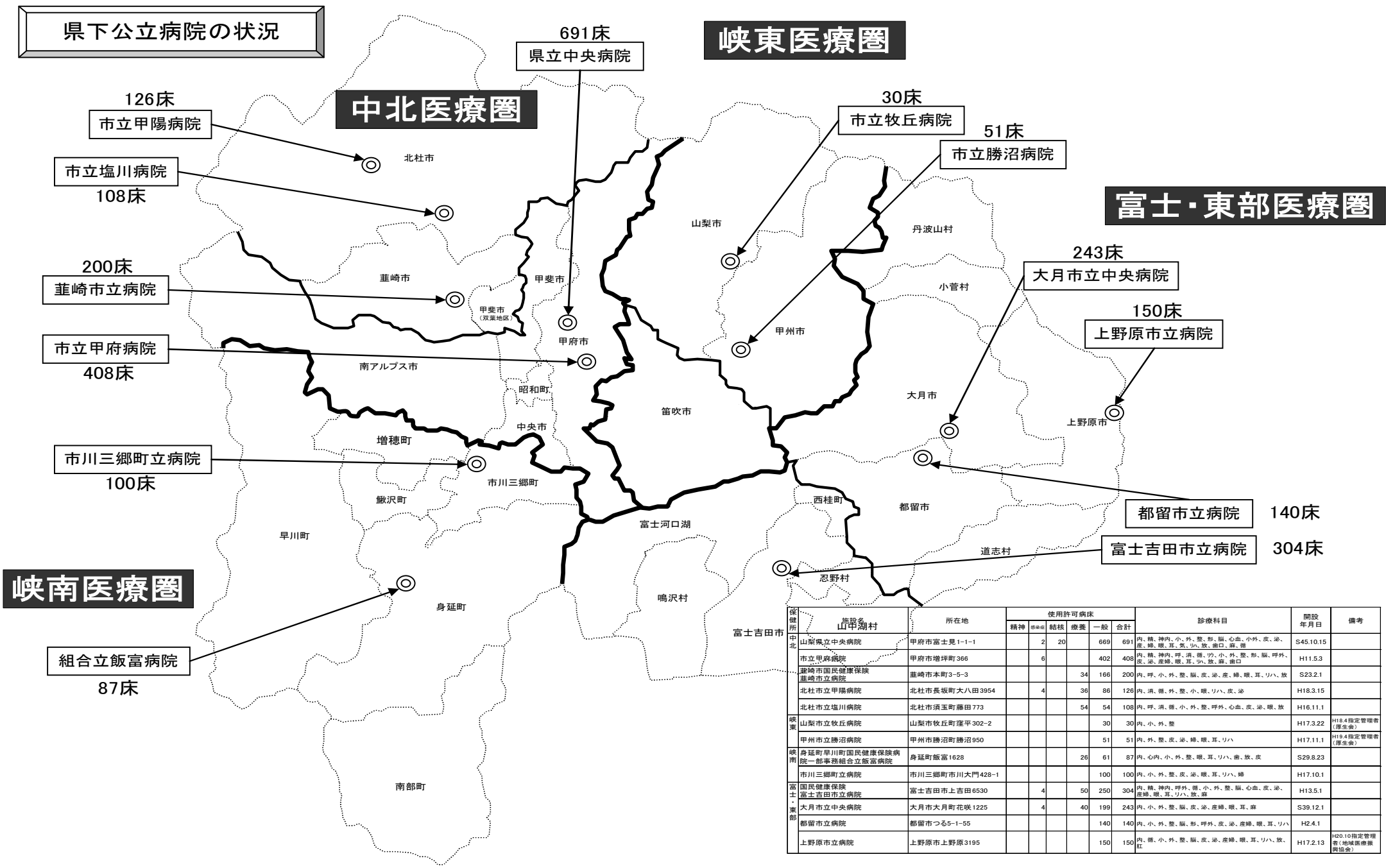
基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向																																								
力みなぎる・やまなし	④ 技術系人材の育成・確保	<p>■ 本県の労働市場(有効求人倍率)の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ H20年11月の0.7倍は統計史上最低倍率。11ヶ月連続で1倍を下回っている。</li> <li>▶ 専門・技術的職については2倍を超えているが、機械・電気技術者、情報処理技術者については、1.83倍であり、求人数は減少している。</li> </ul> <p>■ 昨年2月に「技術系人材確保・育成対策アクションプラン」を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県内外における人材確保、優れた人材育成までの幅広い対策</li> <li>▶ 産学官による推進会議で、更なる課題の抽出と対応策を検討</li> </ul> <p>■ H21年度から、山梨大学工学部に地域枠「地域産業リーダー養成特別枠」創設</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="638 451 1276 976"> <p>本県の有効求人倍率の推移</p> <table border="1"> <caption>本県の有効求人倍率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>有効求人倍率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H15</td><td>0.95</td></tr> <tr><td>H17</td><td>1.09</td></tr> <tr><td>H19</td><td>1.11</td></tr> <tr><td>H20 1月</td><td>0.99</td></tr> <tr><td>H20 3月</td><td>0.91</td></tr> <tr><td>H20 5月</td><td>0.96</td></tr> <tr><td>H20 7月</td><td>0.94</td></tr> <tr><td>H20 9月</td><td>0.85</td></tr> <tr><td>H20 11月</td><td>0.7</td></tr> </tbody> </table> <p>※出典はいずれも山梨労働局 職業安定業務月報「山梨県の労働市場の動き」</p> </div> <div data-bbox="1320 472 2107 955"> <p>職業別求人・求職バランスシート</p> <table border="1"> <caption>職業別求人・求職バランスシート</caption> <thead> <tr> <th>職業</th> <th>有効求人人数</th> <th>有効求職者数</th> <th>有効求人倍率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門・技術的職業</td> <td>2,000</td> <td>1,000</td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td>事務職</td> <td>500</td> <td>2,500</td> <td>0.19</td> </tr> <tr> <td>生産工程・労務職</td> <td>1,800</td> <td>3,300</td> <td>0.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,800</td> <td>2,100</td> <td>0.89</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	時期	有効求人倍率	H15	0.95	H17	1.09	H19	1.11	H20 1月	0.99	H20 3月	0.91	H20 5月	0.96	H20 7月	0.94	H20 9月	0.85	H20 11月	0.7	職業	有効求人人数	有効求職者数	有効求人倍率	専門・技術的職業	2,000	1,000	2.00	事務職	500	2,500	0.19	生産工程・労務職	1,800	3,300	0.55	その他	1,800	2,100	0.89	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ものづくり産業を担う若者の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 山梨大学工学部の地域枠活用</li> <li>▶ 産業技術短期大学校の充実</li> </ul> </li> <li>◆小中高を通じた職業観の醸成・キャリア教育の充実</li> <li>◆県外技術系人材確保対策の充実</li> </ul> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇職業能力開発機能の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 職業能力開発計画の見直し検討</li> <li>▶ 「新たな職業能力開発施設の在り方研究会」の設置</li> <li>▶ 産業技術短期大学校と工業系高校との連携の検討及び企業や中学生等へのアンケート調査の実施等</li> </ul> </li> <li>◇県内における人材確保対策             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 企業団体と山梨大学との就職情報交換会の開催</li> <li>▶ 県内大学への「ジョブカフェランチ」の設置 等</li> </ul> </li> <li>◇県外における人材確保対策             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 東京事務所内への「やまなしU.1ターン就職支援室」設置</li> <li>▶ 「ユースバンクやまなし」創設 等</li> </ul> </li> </ul>
	時期	有効求人倍率																																									
H15	0.95																																										
H17	1.09																																										
H19	1.11																																										
H20 1月	0.99																																										
H20 3月	0.91																																										
H20 5月	0.96																																										
H20 7月	0.94																																										
H20 9月	0.85																																										
H20 11月	0.7																																										
職業	有効求人人数	有効求職者数	有効求人倍率																																								
専門・技術的職業	2,000	1,000	2.00																																								
事務職	500	2,500	0.19																																								
生産工程・労務職	1,800	3,300	0.55																																								
その他	1,800	2,100	0.89																																								
⑤ 新産業創出の取り組み	<p>■ 山梨大学では、NEDOの燃料電池研究開発プロジェクトの委託を受け、今年度から世界最高水準の研究開発を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 研究期間：7年間(H20～26年度)</li> <li>▶ 事業費：約70億円</li> </ul> <p>■ 山梨大学の研究開発成果を活用し、県内で新産業を創出することが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 最先端の技術シーズの中には、県内企業が直接、実用化・事業化することが難しいものも想定される</li> <li>▶ 県内中小企業の技術力の向上など、県内におけるクリーンエネルギー産業の受け皿づくりが必要</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆クリーンエネルギー産業の受け皿づくり</li> <li>◆県内企業の得意分野を生かした先進企業等との連携</li> <li>◆燃料電池技術に関する世界最高水準の研究開発を県内外に情報発信</li> </ul> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇燃料電池技術開発支援(H20年度～)             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 研究センター用地及び研究関連施設として、旧知事公舎等を山梨大学に無償貸与</li> </ul> </li> <li>◇やまなし燃料電池推進会議の設置(H20年度～)</li> <li>◇人材育成のため、山梨大学に研究員を派遣(H20年度～)</li> <li>◇燃料電池関連の研究開発             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 都市エリア産学官連携促進事業(H18～20年度)</li> <li>▶ 工業技術センターにおける関連研究の実施</li> </ul> </li> </ul>																																									

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
力みなぎる・やまなし	⑥ 中心市街地の再生	<p>■ 甲府市中心市街地では、空き店舗の増加や商店数の減少などによる衰退が著しく、活性化に向けた様々な取り組みが進められてきたが、空洞化に歯止めがかからない</p> <p>■ 空洞化に歯止めがかからない要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 不動産所有権が細分化し、弾力的活用が進まない</li> <li>▶ 建物が老朽化する一方、合意形成も難しいため、改築投資や再開発が停滞</li> <li>▶ 地価の下落に比べ家賃が下がらず、空き店舗への新規出店の妨げになっている など</li> </ul>	<p>◆ 甲府市中心市街地活性化基本計画の促進</p> <p>◆ まちづくり会社の取り組み等への支援</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <p>◇ 商店街の活性化に向けた取り組みへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 少子・高齢化に対応する施設の運営</li> <li>▶ 商店街活性化イベントの実施</li> <li>▶ 空き店舗への出店や学生の街づくり拠点の設置等</li> <li>▶ 一店逸品創出による個店の魅力向上</li> </ul>
	<p>甲府市中心市街地の空き店舗の推移</p>  <p>甲府市中心市街地の小売業の商店数 割合%</p>  <p>甲府市中心市街地の歩行量</p> 		

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
やすらぎ・やまなし	① 防災拠点の整備	<p>■ 本県は、東海地震の地震防災対策強化地域として、災害対策本部の強化や防災拠点となる公共施設の耐震化が重要</p> <p>■ 防災拠点となる県有施設の耐震化を進めるため、県耐震改修促進計画を策定</p> <p>▶ 多数の者が利用する特定建築物等をH27年度までに100%耐震化</p> <p>■ 災害対策本部機能を担う県庁舎は、高水準の耐震性能(Is値0.7以上)が必要</p> 	<p>◆ 県有施設の耐震化等整備の推進</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 県有施設の耐震改修の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 改修工事と翌年度工事のための設計を順次実施</li> </ul> </li> <li>◇ 県庁舎耐震化等整備基本計画の策定(H20年度中) <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新庁舎に求められる性能や災害対策本部としての機能等</li> <li>▶ 事業方式…PFI事業として実施する方針</li> </ul> </li> </ul>
	② 少子化対策の推進	<p>■ H19年の合計特殊出生率は、国、県とも前年より若干上昇したが、出生数はいずれも減少しており、依然少子化が進行</p> <p>▶ 全国 (出生数)⑱1,092,674人→⑲1,089,818人 (出生率)⑱1.32→⑲1.34</p> <p>▶ 山梨 (出生数)⑱7,094人 →⑲6,988人 (出生率)⑱1.34→⑲1.35</p> <p>■ 県では、H17年2月に「やまなし子育て支援プラン」を策定し、社会全体で子育てを支援する取り組みを推進</p> <p>■ しかしながら、依然として次のような課題がある。</p> <p>▶ 家庭や地域における子育て機能が低下し、身近での子育ての相談が困難であることにより、子育てに不安を持つ親が増加</p> <p>▶ 子育てに係る経済的負担を理由に、理想とする子どもの数を持たない傾向</p> 	<p>◆ 地域の子育て支援機能の充実</p> <p>◆ 子育て家庭の経済的負担の軽減</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 子育てに関する相談、子育て中の親の交流機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域のNPO等による子育て支援活動の活性化やネットワーク化を促進</li> <li>▶ 子育て中の親が気軽に相談・交流できるよう、スーパーマーケット等に「子育て相談コーナー」を設置</li> </ul> </li> <li>◇ 子育て家庭の経済的負担の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 子どもの医療費の自己負担分を県・市町村が助成 <ul style="list-style-type: none"> <li>※通院…5歳未満児 入院…未就学児</li> <li>※平成20年4月から窓口無料化を実施</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◇ 小児初期救急医療センター開設 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 平成17年3月に甲府市内に小児初期救急医療センターを開設</li> <li>▶ 平成20年10月に富士吉田市内に県内2ヶ所目のセンターを開設</li> </ul> </li> </ul>
	③ 安心して出産できる体制の確保	<p>■ 産科医が全国的に不足する中、本県でも、分娩の取り扱いを中止する医療機関が増加</p> <p>※分娩可能機関 [H16.4]24機関(14病院、10診療所)→ [H20.4] 16機関(7病院、9診療所)</p> <p>■ 産科において、特に医師が不足しているのは、過酷な勤務や医療訴訟などが背景</p> <p>■ 安心して出産できる環境を確保するためには、産科医の確保とあわせ、助産師の活用等により、産科医の負担軽減を図ることも重要</p>  	<p>◆ 県内における産科医師の確保</p> <p>◆ 助産師外来の導入促進</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 県内における産科医師の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県内に定着する医師を確保するための医師修学資金貸与事業を実施</li> <li>▶ 臨床研修修了後、県内病院において産科の後期研修プログラムを受講する者に奨励金を交付</li> </ul> </li> <li>◇ 山梨大学に寄附講座を設置(H20年10月) <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 助産師外来運用マニュアルの策定、助産師の資質向上のための研修会等を実施</li> </ul> </li> <li>※産科医療補償制度創設(H21年1月) <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 国において、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺児に対する無過失補償制度を創設</li> <li>▶ 県内全ての分娩施設が加入</li> </ul> </li> </ul>



基本目標	項目	現 状 と 課 題	取 り 組 み の 方 向
やすらぎ・やまなし	④ 公立病院の再編・ネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域医療を担う公立病院の多くは、厳しい経営と医師不足に直面</li> <li>■ 国は、昨年末、経営効率化に向けた「公立病院改革ガイドライン」を提示 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 公立病院を有する各自治体は本年度中に「改革プラン」を策定</li> <li>▶ プランには県が策定する「再編・ネットワーク化構想」の内容を反映</li> </ul> </li> <li>■ 県は、各医療圏ごとに設置されている、地元市町村、病院、医師会、住民等からなる「地域保健医療推進委員会」での議論を踏まえ、「公立病院等の再編・ネットワーク化構想(素案)」を公表 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 構想策定にあたっての基本的考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>将来にわたり、地域住民に対し、安定的・継続的に良質な医療が提供できる体制の構築を目指して、公立病院が果たしている役割や配置状況等の地域の実情を十分踏まえ、医師等の医療資源に限りがある中で現時点で最も適当と考えられる医療機関の連携のあり方等について、地域の関係者の合意の下に方向性を示す。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 医療圏ごとの実情を踏まえた公立病院の再編・ネットワーク化の推進</li> <li>【現在の主な取り組み】</li> <li>◇ 構想策定に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 平成20年12月に「公立病院等の再編・ネットワーク化構想(素案)」を公表</li> <li>▶ パブリックコメントによる県民の意見を反映したうえで、平成21年2月上旬に構想を策定</li> </ul> </li> </ul>



基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向																		
やすらぎ・やまなし	⑤ 県立病院の経営形態の見直し	<p>■ 県立病院(中央病院、北病院)の使命: 県民の健康と生命を守る最後の砦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 県民の医療ニーズの多様化、高度化に対応した良質な医療を提供すること</li> <li>◆ 救命救急医療、周産期母子医療、精神科救急などの政策医療を確実に実施すること</li> </ul> <p>■ 県立病院運営上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自主的、柔軟、迅速な業務運営が難しい <ul style="list-style-type: none"> <li>① 予算の執行に至るまでに長時間を要する</li> <li>② 定員削減計画の対象となるため、医師、看護師等の増員が困難である (定員適正化計画における県立病院職員の削減計画 H17.4.1: 903人 =&gt; H23.4.1: 860人 △43人、△4.8%)</li> </ul> </li> <li>◆ 診療報酬の引き下げなど病院の経営環境が悪化、県立病院の累積欠損金が拡大(H19決算: 136億円)</li> <li>◆ 経営の健全化を図りつつ県立病院の使命を達成していくためには、経営形態の見直しが必要</li> </ul> <p>■ 経営形態見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 検討状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 病院経営の専門家などからなる「県立病院経営形態検討委員会」: 一般地方独立行政法人化が適当</li> <li>② 県議会の「県立病院あり方検討特別委員会」: 一般地方独立行政法人と地方公営企業法の全部適用のいずれを可とするか結論にいたらなかった</li> <li>③ タウンミーティングにおける参加者の意見: 政策医療は県立病院の使命である。職員が公務員でなくなることへの不安</li> </ul> </li> <li>◆ 各制度の比較 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地方独立行政法人と地方公営企業法の全部適用との比較 地方独立行政法人は、経営責任が明確でより自主的で柔軟な業務運営が可能となる 地方独立行政法人となっても、県議会の議決を得た上で県が示す中期目標等を通じて、政策医療もしっかりと確保される</li> <li>② 地方独立行政法人制度の中で職員が公務員である特定型と一般型の比較 県立病院の職員が公務員であることで安心感が得られるとの県民の声がある 県立北病院を心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関とするためには、現行法上、特定型とすることが必要</li> </ul> </li> <li>◆ 結論 県立病院の経営形態として、特定地方独立行政法人化が適当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成22年4月から、県立中央病院と県立北病院を一体として「特定地方独立行政法人」に移行できるよう準備を進める</li> <li>◆ 県立病院経営の方針 県民に良質な医療を提供し、そのことを通じて、経営基盤の確立を図る</li> <li>◆ 特定地方独立行政法人へ移行することによる病院運営面でのメリット <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の意識改革の推進</li> <li>・ 経営責任の明確化や弾力的な業務運営の実現</li> <li>・ 第三者機関により、業務運営状況の定期的なチェックを受けることで業務改善を推進</li> <li>・ 柔軟な職員採用による優秀なスタッフの確保</li> </ul> </li> <li>◆ 法人設立に向けた準備 法人定款の作成 評価委員会設置 中期目標、中期計画の作成 出資金の確定、権利義務の承継 役員を選任、職員の任命・引継ぎ 業務方法書の作成、諸規定の整備 等</li> </ul>																		
	<p style="text-align: center;">県立病院の決算状況</p> <table border="1"> <caption>県立病院の決算状況 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>純損失 (百万円)</th> <th>累積欠損金 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H14</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> </tr> <tr> <td>H15</td> <td>1,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>H16</td> <td>2,000</td> <td>7,000</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>4,000</td> <td>10,000</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>2,000</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>1,500</td> <td>14,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	純損失 (百万円)	累積欠損金 (百万円)	H14	4,000	4,000	H15	1,000	5,000	H16	2,000	7,000	H17	4,000	10,000	H18	2,000	12,000	H19	1,500
年度	純損失 (百万円)	累積欠損金 (百万円)																			
H14	4,000	4,000																			
H15	1,000	5,000																			
H16	2,000	7,000																			
H17	4,000	10,000																			
H18	2,000	12,000																			
H19	1,500	14,000																			

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
はぐくむ・やまなし	① 山梨の教育振興	<p>■本県は、これまでH16年3月に策定された「やまなしの教育基本計画」に基づき、教育・文化・スポーツの充実発展のため、様々な取組を推進</p> <p>■この間の、国・県段階の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年12月教育基本法改正 ・H19年6月教育関連三法改正 ・H20年3月「学習指導要領(小・中学校)」改訂</li> <li>・H20年7月国の教育振興基本計画の公表 ・H19年12月チャレンジ山梨行動計画「はぐくむ・やまなし」の策定</li> </ul> <p>■この間の、教育を取り巻く社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質的な充実を求める社会への移行 ・雇用形態の多様化 ・少子化・高齢化・核家族化の進行</li> <li>・知識基盤社会の到来と高度情報化の進展 ・国際化の進展 ・地球温暖化等の環境問題への取り組み</li> </ul> <p>■子どもたちの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係形成能力等の低下 ・国語力等の不足と学習習慣の欠如</li> <li>・読書・体験活動の不足と文化部活動の多様化 ・いじめ・不登校の存在と問題行動の増加</li> <li>・規範意識や倫理観の不足 ・体力・運動能力の低下と生活習慣の変化</li> </ul> <p>■上記の状況変化による、本県の新たな教育振興のための基本計画策定の必要性</p> <p>■計画策定に当たって、国の教育振興基本計画が示す「縦」の接続と「横」の連携に留意することの必要性</p>	<p>◆新たな山梨県の教育振興基本計画の策定</p> <p>◆平成21年度から5年間、この計画に基づく取組の推進</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇山梨県教育振興基本計画策定委員会の開催(5回) 平成20年5月27日 7月29日 8月28日 10月16日 11月14日</li> <li>◇やまなしの教育に関するアンケート調査実施(平成20年5月～6月)</li> <li>◇平成20年11月19日 策定委員会から答申</li> <li>◇計画の素案を作成、パブリックコメントの実施(12月3日から25日)</li> <li>◇平成21年2月3日公表に向け、パブリックコメントを受けて計画策定中</li> <li>◇公表後、内容の周知を図る予定</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>「縦」の接続</b> (体系的なキャリア教育)</p> <p>「生きる力」をはぐくむ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>「横」の連携</b> (地域全体で取り組む教育)</p> <p>○地域の活性化 ○地域の教育力の向上</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;"><b>「山梨県教育振興基本計画(仮称)」</b></p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>基本理念：「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」</p> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>基本目標： 個性を生かし、生きる力をはぐくむ「やまなし」人づくり 豊かで潤いがあり、明るく活力に満ちた「やまなし」社会づくり</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>基本的な施策の柱：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校教育の充実</li> <li>2 家庭・地域・学校の連携</li> <li>3 生涯学習の推進</li> <li>4 スポーツの振興</li> <li>5 文化の振興</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>重点施策：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「体系的なキャリア教育の推進」</li> <li>2 「地域全体で取り組む教育の推進」</li> <li>3 「確かな学力の育成」</li> <li>4 「豊かな心の育成」</li> <li>5 「健やかな体の育成」</li> <li>6 「文化の振興」</li> </ol> </div> </div>	

基本 目標	項 目	現 状 と 課 題	取 組 み の 方 向																		
は ぐ く む ・ や ま な し	② 高等学校教育の 充実	<p>■本県は、これまでH8年3月策定の「高等学校整備新構想」に基づき、総合学科や全日制単位制普通科などの設置を推進</p> <p>■この間において、本県の高校教育を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶H19年度入試から全県一学区による新たな入試制度を導入</li> <li>▶県内産業を担う人材の育成などの要請</li> <li>▶生徒の減少・多様化の進行</li> </ul> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>県立高等学校整備構想の概念図</b> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       全県一学区のもとでの魅力ある高校づくり     </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%; text-align: center;">課 題</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">基本的な考え方</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">検 討 項 目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒の多様化への対応</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">魅力ある高校づくり</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           魅力ある高校づくり            (1)高校              ①全日制              ②定時制・通信制            (2)中高一貫教育校         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">時代のニーズへの対応</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">地域との連携</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域との連携</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">生徒の減少と学校の 適正規模の確保</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学校の再編整備</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           学校の適正規模の確保            ①学校の適正規模            ②統廃合基準            ③学校の適正配置         </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">公私の在り方</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">整備構想の推進について</td> </tr> </tbody> </table>	課 題	基本的な考え方	検 討 項 目	生徒の多様化への対応	魅力ある高校づくり	魅力ある高校づくり (1)高校 ①全日制 ②定時制・通信制 (2)中高一貫教育校	時代のニーズへの対応	地域との連携	地域との連携	生徒の減少と学校の 適正規模の確保	学校の再編整備	学校の適正規模の確保 ①学校の適正規模 ②統廃合基準 ③学校の適正配置			公私の在り方			整備構想の推進について	<p>◆新たな構想に基づく県立高校の整備推進</p> <p>【現在の取り組み】</p> <p>◇「県立高等学校整備構想(仮称)」検討委員会の設置、開催</p> <p>【これまでの開催】</p> <p>第1回構想検討委員会：H20年10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現構想の整備状況</li> <li>・高校の現状</li> <li>・新たな構想の趣旨等</li> </ul> <p>第2回構想検討委員会：H20年11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日制(普通科、総合学科)</li> </ul> <p>第3回構想検討委員会：H20年12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制・通信制</li> <li>・中高一貫教育</li> </ul> <p>第4回構想検討委員会：H21年1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科</li> <li>・地域の教育力と連携した高校教育の推進</li> </ul> <p>※H21年6月まで今後3回開催予定</p> <p>※H21年7月報告書の提出(予定)</p> <p>※H21年10月構想の公表(予定)</p>
	課 題	基本的な考え方	検 討 項 目																		
生徒の多様化への対応	魅力ある高校づくり	魅力ある高校づくり (1)高校 ①全日制 ②定時制・通信制 (2)中高一貫教育校																			
時代のニーズへの対応	地域との連携	地域との連携																			
生徒の減少と学校の 適正規模の確保	学校の再編整備	学校の適正規模の確保 ①学校の適正規模 ②統廃合基準 ③学校の適正配置																			
		公私の在り方																			
		整備構想の推進について																			

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向																																														
Ⅲ はぐくむ・やまなし	③ 国民文化祭開催に向けての取り組み	<p>■国内最大級の文化の祭典である「国民文化祭」について、平成25年度第28回大会の本県での実施が内定(H19.10.24)</p> <p>■開催内定を受け「開催準備委員会」を設置し、今後取り組むべき事項や課題を検討(H19.12～H20.3)</p> <p>■県内各界各層の参加のもと「基本構想検討委員会」を設置し、2カ年かけて基本構想を策定(H20.6～H22.3)</p> <p>【課題】</p> <p>□芸術文化活動の活性化</p> <p>□国民文化祭の県民への周知、機運醸成</p> <p>□開催に向けての推進体制の確立</p>	<p>◆芸術文化普及・交流促進事業や県民文化祭などを通じ、県内芸術文化活動の活性化や新たな分野の育成、組織化を進める</p> <p>◆開催会場となる各市町村や開催主体となる芸術文化団体への説明会の開催、意向調査の実施、広報活動の強化</p> <p>【今後の主な取り組み】</p> <p>◇20年度：基本構想検討委員会設置、市町村・芸術文化団体への説明会、意向調査実施</p> <p>◇21年度：基本構想策定</p> <p>◇22年度：県実行委員会設立、実施計画大綱策定</p> <p>◇23年度：市町村実行委員会設立、事業別実施計画策定</p> <p>◇24年度：プレ大会実施</p> <p>◇25年度：国民文化祭山梨県大会実施</p>																																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> <tr> <td>茨城大会 (5年前)</td> <td>静岡大会 (4年前)</td> <td>岡山大大会 (3年前)</td> <td>京都大会 (2年前)</td> <td>調整中 (1年前)</td> <td>山梨大会 (開催年)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">基本構想検討委員会</td> <td colspan="4">県実行委員会</td> </tr> <tr> <td colspan="2">基本構想策定 (テーマ・会期・事業の実施分野・実施数・広報計画・運営体制)</td> <td colspan="2">実施計画大綱策定 (開催市町村・会場・開催日)</td> <td colspan="2">市町村実行委員会</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市町村・文化団体説明会開催</td> <td colspan="2">マスコットキャラクター等の募集</td> <td colspan="2">プレ大会実施</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">市町村・文化団体意向調査</td> <td colspan="2">大会実施</td> </tr> <tr> <td colspan="2">環境づくり</td> <td colspan="2">事業内容検討</td> <td colspan="2">準備作業</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">事業実施</td> </tr> </tbody> </table>	H20	H21	H22	H23	H24	H25	茨城大会 (5年前)	静岡大会 (4年前)	岡山大大会 (3年前)	京都大会 (2年前)	調整中 (1年前)	山梨大会 (開催年)	基本構想検討委員会		県実行委員会				基本構想策定 (テーマ・会期・事業の実施分野・実施数・広報計画・運営体制)		実施計画大綱策定 (開催市町村・会場・開催日)		市町村実行委員会		市町村・文化団体説明会開催		マスコットキャラクター等の募集		プレ大会実施				市町村・文化団体意向調査		大会実施		環境づくり		事業内容検討		準備作業						事業実施	
H20	H21	H22	H23	H24	H25																																												
茨城大会 (5年前)	静岡大会 (4年前)	岡山大大会 (3年前)	京都大会 (2年前)	調整中 (1年前)	山梨大会 (開催年)																																												
基本構想検討委員会		県実行委員会																																															
基本構想策定 (テーマ・会期・事業の実施分野・実施数・広報計画・運営体制)		実施計画大綱策定 (開催市町村・会場・開催日)		市町村実行委員会																																													
市町村・文化団体説明会開催		マスコットキャラクター等の募集		プレ大会実施																																													
		市町村・文化団体意向調査		大会実施																																													
環境づくり		事業内容検討		準備作業																																													
				事業実施																																													

基本目標	項目	現状と課題	取り組みの方向
はぐくむ・やまなし	④ 県立文学館の魅力向上	<p>■ 県立文学館は、本年11月に開館から20周年を迎える</p> <p>■ 企画展の開催等により魅力づくりに努めているが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 近年、入館者数がピーク時の1/3程度に低迷</li> <li>▶ 開館以来、収蔵作品等の充実が図られてきたが、展示スペースに限りがあるため、貴重な資料の活用が十分でない状況</li> </ul> <p>■ こうした中、最近の傾向として、県ゆかりの作家・作品へのニーズが増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 飯田龍太の死去に伴い、飯田蛇笏とともに飯田親子の業績を展観</li> <li>▶ 樋口一葉を目的とした団体の来館など</li> </ul> <p>■ 展観方法の改善等による、利用者の満足度の向上が必要</p>	<p>◆ ニーズを踏まえた展観方法の提供</p> <p>◆ 学校教育の場としての機能の拡充</p> <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 年2回程度の企画展を実施</li> <li>◇ 講演会等の自主企画事業の実施</li> <li>◇ 利用者の便益に資する多様な観覧券の発行 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 年間パスポート券</li> <li>▶ ミュージアム甲斐in券(美術館、文学館、博物館、考古博物館の共通観覧券)</li> <li>▶ 文学館・美術館常設展共通観覧券 など</li> </ul> </li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="566 451 1350 1041"> <p>人 県立文学館の入館者数の推移</p> <p>※山梨県立文学館調べ</p> </div> <div data-bbox="1350 451 2139 1041"> <p>県立文学館における所蔵点数の推移 (飯田蛇笏・龍太、樋口一葉、芥川龍之介)</p> <p>※山梨県立文学館調べ</p> </div> </div>		